

## Ⅱ 調査結果の概要

注) 文中において、今期、来期については、特に説明がない限り、以下の時期である。

- 前期 平成27年 7月～平成27年 12月期
- 今期 平成28年 1月～平成28年 6月期
- 来期 平成28年 7月～平成28年 12月期

# 1. 景況天気図

## 【業況判断(全体)】

	H28年1～3月期(実績)	H28年4～6月期(実績)	H28年7～9月期(見込み)	H28年10～12月期(見通し)
全体				
BSI	(▲25.1)	(▲34.1)	(▲27.8)	(▲23.3)

## 【従業者規模別】

	H28年1～3月期(実績)	H28年4～6月期(実績)	H28年7～9月期(見込み)	H28年10～12月期(見通し)
4人以下				
BSI	(▲42.0)	(▲43.8)	(▲32.7)	(▲33.0)
5人～19人				
BSI	(▲25.5)	(▲30.9)	(▲27.2)	(▲20.7)
20人以上				
BSI	(▲11.2)	(▲29.2)	(▲24.5)	(▲17.6)

## 【業種別】

	H28年1～3月期(実績)	H28年4～6月期(実績)	H28年7～9月期(見込み)	H28年10～12月期(見通し)
製造業計				
BSI	(▲23.5)	(▲31.2)	(▲28.5)	(▲23.1)
非製造業計				
BSI	(▲25.4)	(▲34.8)	(▲27.6)	(▲23.2)
建設業				
BSI	(▲21.8)	(▲39.5)	(▲29.3)	(▲26.6)
運輸・通信業				
BSI	(▲13.3)	(▲28.7)	(▲27.3)	(▲18.2)
卸・小売業				
BSI	(▲34.6)	(▲44.4)	(▲32.7)	(▲27.1)
飲食・宿泊業				
BSI	(▲40.0)	(▲44.2)	(▲31.7)	(▲26.7)
サービス業				
BSI	(▲22.4)	(▲23.6)	(▲21.2)	(▲19.2)

※ 各期のBSIが前期と比べて10ポイント以上の差が生じた場合には、矢印を表記している。

## 【凡例】

天気マーク						
BSI水準	(30.1～)	(10.1～30.0)	(▲10.0～10.0)	(▲10.1～▲30.0)	(▲30.1～▲50.0)	(▲50.1～)

## 2. 調査結果の総括

新潟市内事業所の「業況判断」について、平成28年1～3月期は27年10～12月期から悪化し、続く28年4～6月期は同1～3月期からさらに悪化した。足元の28年7～9月期は同4～6月期から改善する見込みとなっており、先行きの同10～12月期は一段と改善する見通しとなっている。

今期における他の主要項目のBSIをみると、「生産・売上」、「受注」、「出荷量」は低下し、「資金繰り」は悪化した。また、「製・商品在庫」では過剰超幅が拡大し、「原材料在庫」は過剰超となった。「仕入価格」と「販売価格」はともに低下し、雇用でも、「所定外労働時間」と「1人当たり人件費」がともに低下した。

経営上の問題については、「生産・受注・売上げ不振」の割合が最も高く、以下「人材不足」、「競争の激化」、「先行き見通し難」と続いている。

業界の動向については、受注・販売競争の激化や人材不足による事業の制限、人件費及び仕入価格の上昇による採算の悪化などから、業況が悪化したといった声が数多くあった。一方で、「ふるさと旅行券」の効果や地元アイドル誕生の効果のほか、新商品の投入や専門人材の配置などの経営努力により、業況が改善したといった声もあった。

## 3. 新潟市景況調査結果 (BSI) の総括表

1. 業況 P. 12～	<ul style="list-style-type: none"> <li>28年1～3月期の業況感を示した業況BSI(「良い」－「悪い」)は▲25.1と、27年10～12月期の▲20.4から4.7ポイント悪化した。続く28年4～6月期は▲34.1と、同1～3月期からさらに9.0ポイント悪化した。</li> <li>足元の28年7～9月期は▲27.8となり、同4～6月期から6.3ポイント改善し、先行きの同10～12月期は▲23.3と、同7～9月期からさらに4.5ポイント改善する見通しとなっている。</li> </ul>
2. 生産・売上 P. 20～	<ul style="list-style-type: none"> <li>今期の生産・売上BSI(「増加」－「減少」)は▲23.6と、前期(▲13.3)から10.3ポイント低下した。来期は▲23.1と、今期とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。</li> </ul>
3. 受注 (製造業・建設業のみ) P. 25～	<ul style="list-style-type: none"> <li>今期の受注BSI(「増加」－「減少」)は▲32.1と、前期(▲18.6)から13.5ポイント低下した。来期は▲33.2と、今期よりさらに1.1ポイント低下する見込みとなっている。</li> </ul>
4. 出荷 (製造業のみ) P. 28～	<ul style="list-style-type: none"> <li>今期の出荷量BSI(「増加」－「減少」)は▲24.0と、前期(▲16.1)から7.9ポイント低下した。来期は▲22.6と、今期より1.4ポイント上昇する見込みとなっている。</li> <li>今期の出荷額BSI(「増加」－「減少」)は▲20.8と、前期(▲15.2)から5.6ポイント低下した。来期は▲21.7と、今期とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。</li> </ul>
5. 在庫水準 (原材料在庫は製造業のみ) P. 33～	<ul style="list-style-type: none"> <li>今期の製・商品在庫BSI(「過剰」－「不足」)は2.9と、前期(1.6)から1.3ポイント過剰超幅が拡大した。来期については1.0と、在庫の適正化が進む見込みとなっている。</li> <li>今期の原材料在庫BSI(「過剰」－「不足」)は2.7と、前期(0.0)から2.7ポイント上昇し、過剰感が高まった。来期は▲0.4と、今期から3.1ポイント低下し、不足超に転じる見込みとなっている。</li> </ul>
6. 価格 P. 41～	<ul style="list-style-type: none"> <li>今期の仕入価格BSI(「上昇」－「低下」)は12.1と、前期(17.1)から5.0ポイント低下した。来期については9.8と、今期からさらに2.3ポイント低下する見込みとなっている。</li> <li>今期の販売価格BSI(「上昇」－「低下」)は▲11.0と、前期(▲4.5)から6.5ポイント低下した。来期は▲11.6と、今期よりさらに0.6ポイント低下する見込みとなっている。</li> </ul>
7. 資金繰り P. 51～	<ul style="list-style-type: none"> <li>今期の資金繰りBSI(「好転」－「悪化」)は▲16.4と、前期(▲10.7)から5.7ポイント悪化した。来期は▲14.5と、今期より1.9ポイント改善する見込みとなっている。</li> </ul>

<p>8. 雇用 P. 56～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>28年度の雇用BSI(正社員の数) (「増加」－「減少」)は1.0と、27年度(0.8)とほぼ同水準となった。29年度は4.0と、今期から3.0ポイント上昇する見通しとなっている。</li> <li>28年度の臨時・パート社員等の雇用BSI(「増加」－「減少」)は▲0.4と、27年度(▲0.5)とほぼ同水準となった。29年度も▲1.2と、28年度とほぼ同水準で推移する見通しとなっている。</li> <li>今期の所定外労働時間BSI(「増加」－「減少」)は▲7.5と、前期(▲0.5)から7.0ポイント低下した。来期は▲7.1と、今期とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。</li> <li>今期の1人当たり人件費BSI(「増加」－「減少」)は17.1と、前期(19.9)から2.8ポイント低下した。来期は13.8と、今期からさらに3.3ポイント低下する見込みとなっている。</li> </ul>
<p>9. 設備投資動向 P. 76～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今期の生産設備BSI(「過剰」－「不足」)は▲0.9と、前期(▲6.4)から5.5ポイント上昇し、不足超幅が縮小した。来期は▲1.4と、今期とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。</li> <li>今期の営業用設備BSI(「過剰」－「不足」)は▲4.1と、前期(▲4.5)とほぼ同水準で推移した。来期も▲3.1と、今期とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。</li> <li>28年度における設備投資の実施事業所割合(実績見込み)は23.5%と、27年度より1.5ポイント低下する見込みとなっている。29年度は15.6%と、28年度よりさらに7.9ポイント低下する見通しとなっている。</li> <li>28年度の設備投資目的としては、「既存機械・設備の入れ替え」が59.2%と、最も高くなっている。</li> </ul>
<p>10. 経営上の問題 P. 85～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経営上の問題については(複数回答)、「生産・受注・売上げ不振」(40.4%)の割合が最も高く、以下「人材不足」(39.6%)、「競争の激化」(30.2%)、「先行き見通し難」(25.0%)と続いている。</li> </ul>

#### 4. 業種別 新潟市景況調査結果(BSI)の総括表

<p>製造業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>28年1～3月期の業況判断BSIは▲23.5と、27年10～12月期(▲24.4)からほぼ同水準で推移した。続く28年4～6月期は▲31.2と、7.7ポイント悪化したものの、足元の28年7～9月期は▲28.5と、改善する見込みである。先行きについてみると、28年10～12月期は▲23.1と、さらに改善する見通しとなっている。</li> <li>今期の生産・売上BSIは▲25.3と、前期(▲19.3)から6.0ポイント低下した。来期は▲24.9と、ほぼ同水準で推移する見込みとなっている。</li> <li>今期の受注BSIは▲22.6と、前期(▲14.7)から7.9ポイント低下した。来期は▲24.0と、さらに低下する見込みとなっている。</li> <li>今期の製・商品在庫BSIは3.2と、前期(▲1.8)から5.0ポイント上昇した。来期は0.9と、適正化が進む見込みとなっている。</li> <li>今期の仕入価格BSIは13.1と、前期(22.1)から9.0ポイント低下した。また、今期の販売価格BSIは▲19.0と、前期(▲12.9)から6.1ポイント低下した。</li> <li>今期の資金繰りBSIは▲15.9と、前期(▲17.1)から1.2ポイント改善した。来期は▲16.8と、ほぼ同水準で推移する見込みである。</li> <li>28年度における設備投資の実施事業所割合は32.2%と、前年度(31.7%)とほぼ同水準になる見込みである。</li> <li>経営上の問題については(複数回答)、「生産・受注・売上げ不振」(50.2%)の割合が最も高く、以下「人材不足」(32.6%)、「仕入価格の上昇」(31.7%)と続いている。</li> </ul>
------------	--

<p>非製造業 計</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>28年1～3月期の業況判断BSIは▲25.4と、27年10～12月期(▲19.3)から6.1ポイント悪化した。続く28年4～6月期は▲34.8と、さらに9.4ポイント悪化したものの、足元の28年7～9月期は▲27.6と、改善に転じる見込みである。先行きについてみると、28年10～12月期は▲23.2と、さらに改善する見通しとなっている。</li> <li>今期の生産・売上BSIは▲23.2と、前期(▲11.6)から11.6ポイント低下した。来期は▲22.7と、ほぼ同水準で推移する見込みとなっている。</li> <li>今期の仕入価格BSIは11.9と、前期(15.6)から3.7ポイント低下した。また、今期の販売価格BSIは▲9.1と、前期(▲2.1)から7.0ポイント低下した。</li> <li>今期の資金繰りBSIは▲16.5と、前期(▲8.8)から7.7ポイント悪化した。しかし、来期は▲14.0と、やや改善する見込みである。</li> <li>28年度における設備投資の実施事業所割合は21.2%と、前年度(23.3%)からやや低下する見込みである。</li> <li>経営上の問題については(複数回答)、「人材不足」(41.3%)の割合が最も高く、以下「生産・受注・売上げ不振」(38.0%)、「競争の激化」(32.0%)と続いている。</li> </ul>
<p>建設業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>28年1～3月期の業況判断BSIは▲21.8と、27年10～12月期(▲12.7)から9.1ポイント悪化した。続く28年4～6月期は▲39.5と、さらに17.7ポイント悪化したものの、足元の28年7～9月期は▲29.3と、改善に転じる見込みである。先行きについてみると、28年10～12月期は▲26.6と、さらに改善する見通しとなっている。</li> <li>今期の生産・売上BSIは▲33.9と、前期(▲17.6)から16.3ポイント低下した。来期は▲31.6と、上昇する見込みとなっている。</li> <li>今期の受注BSIは▲41.9と、前期(▲23.2)から18.7ポイント低下した。来期は▲42.8と、ほぼ同水準で推移する見込みとなっている。</li> <li>今期の仕入価格BSIは10.2と、前期(19.4)から9.2ポイント低下した。また、今期の販売価格BSIは▲17.7と、前期(▲8.3)から9.4ポイント低下した。</li> <li>今期の資金繰りBSIは▲25.1と、前期(▲9.4)から15.7ポイント悪化した。来期は▲24.6と、ほぼ同水準で推移する見込みである。</li> <li>28年度における設備投資の実施事業所割合は17.9%と、前年度(23.0%)から低下する見込みである。</li> <li>経営上の問題については(複数回答)、「生産・受注・売上げ不振」(52.1%)の割合が最も高く、以下「人材不足」(47.0%)、「競争の激化」(37.2%)と続いている。</li> </ul>
<p>運輸・通信業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>28年1～3月期の業況判断BSIは▲13.3と、27年10～12月期(▲0.9)から12.4ポイント悪化した。続く28年4～6月期は▲28.7と、さらに15.4ポイント悪化したものの、足元の28年7～9月期は▲27.3と、改善に転じる見込みである。先行きについてみると、28年10～12月期は▲18.2と、さらに改善する見通しとなっている。</li> <li>今期の生産・売上BSIは▲18.9と、前期(▲0.8)から18.1ポイント低下した。来期も▲18.9と、横ばいで推移する見込みとなっている。</li> <li>今期の仕入価格BSIは2.8と、前期(▲9.3)から12.1ポイント上昇した。一方、今期の販売価格BSIは▲2.8と、前期(0.8)から3.6ポイント低下した。</li> <li>今期の資金繰りBSIは▲5.6と、前期(5.1)から10.7ポイント悪化した。来期は▲9.8と、さらに悪化する見込みである。</li> <li>28年度における設備投資の実施事業所割合は34.1%と、前年度(30.5%)から上昇する見込みである。</li> <li>経営上の問題については(複数回答)、「人材不足」(46.2%)の割合が最も高く、以下「生産・受注・売上げ不振」(35.0%)、「労働力不足」(31.5%)と続いている。</li> </ul>

非製造業	卸・小売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>28年1～3月期の業況判断BSIは▲34.6と、27年10～12月期(▲25.5)から9.1ポイント悪化した。続く28年4～6月期は▲44.4と、さらに9.8ポイント悪化したものの、足元の28年7～9月期は▲32.7と、改善に転じる見込みである。先行きについてみると、28年10～12月期は▲27.1と、さらに改善する見通しとなっている。</li> <li>今期の生産・売上BSIは▲30.3と、前期(▲12.4)から17.9ポイント低下した。来期は▲25.3と、上昇する見込みとなっている。</li> <li>今期の仕入価格BSIは7.4と、前期(19.7)から12.3ポイント低下した。また、今期の販売価格BSIは▲13.0と、前期(1.3)から14.3ポイント低下した。</li> <li>今期の資金繰りBSIは▲13.0と、前期(▲10.4)から2.6ポイント悪化した。しかし、来期は▲9.2と、改善する見込みである。</li> <li>28年度における設備投資の実施事業所割合は17.5%と、前年度(18.3%)とほぼ同水準になる見込みである。</li> <li>経営上の問題については(複数回答)、「競争の激化」(42.0%)の割合が最も高く、以下「生産・受注・売上げ不振」(35.8%)、「人材不足」(33.3%)と続いている。</li> </ul>
	飲食・宿泊業	<ul style="list-style-type: none"> <li>28年1～3月期の業況判断BSIは▲40.0と、27年10～12月期(▲33.3)から6.7ポイント悪化した。続く28年4～6月期は▲44.2と、さらに4.2ポイント悪化したものの、足元の28年7～9月期は▲31.7と、改善に転じる見込みである。先行きについてみると、28年10～12月期は▲26.7と、さらに改善する見通しとなっている。</li> <li>今期の生産・売上BSIは▲17.5と、前期(▲4.0)から13.5ポイント低下した。来期は▲20.8と、さらに低下する見込みとなっている。</li> <li>今期の仕入価格BSIは42.5と、前期(42.4)とほぼ同水準で推移した。一方、今期の販売価格BSIは▲0.8と、前期(8.0)から8.8ポイント低下した。</li> <li>今期の資金繰りBSIは▲25.8と、前期(▲15.1)から10.7ポイント悪化した。しかし、来期は▲15.9と、改善する見込みである。</li> <li>28年度における設備投資の実施事業所割合は24.5%と、前年度(26.7%)からやや低下する見込みである。</li> <li>経営上の問題については(複数回答)、「仕入価格の上昇」(52.5%)の割合が最も高く、以下「人材不足」(42.5%)、「生産・受注・売上げ不振」(38.3%)と続いている。</li> </ul>
	サービス業	<ul style="list-style-type: none"> <li>28年1～3月期の業況判断BSIは▲22.4と、27年10～12月期(▲24.3)から1.9ポイント改善した。続く28年4～6月期は▲23.6と、1.2ポイント悪化するものの、足元の28年7～9月期は▲21.2と、再び改善する見込みである。先行きについてみると、28年10～12月期は▲19.2と、さらに改善する見通しとなっている。</li> <li>今期の生産・売上BSIは▲14.4と、前期(▲15.2)とほぼ同水準で推移した。来期は▲16.4と、やや低下する見込みとなっている。</li> <li>今期の仕入価格BSIは6.8と、前期(10.9)から4.1ポイント低下した。また、今期の販売価格BSIは▲6.8と、前期(▲5.7)から1.1ポイント低下した。</li> <li>今期の資金繰りBSIは▲13.2と、前期(▲11.9)から1.3ポイント悪化した。しかし、来期は▲9.6と、改善する見込みである。</li> <li>28年度における設備投資の実施事業所割合は17.7%と、前年度(20.9%)から低下する見込みである。</li> <li>経営上の問題については(複数回答)、「人材不足」(38.4%)の割合が最も高く、以下「生産・受注・売上げ不振」(28.8%)、「競争の激化」(28.4%)と続いている。</li> </ul>